

文化センターTOM周辺の**活性化**に向けて

～地域力創造アドバイザーからの中間報告②～

先月号では、アドバイザーから提案された4つのエリアのうち、「文化センターTOM 拠点エリア」と「飲食店、宿泊施設 拠点エリア」の具体的な構想アイデアをご紹介しました。

今月号では、残りの「チューリップの湯 拠点エリア」と「百年記念公園 拠点エリア」の構想アイデアについてお伝えします。



※紹介する内容は中間報告における提案であるため、すべてを実現しようとするものではありません。

「チューリップの湯」を拠点とした エリアは…「癒し・くつろぎゾーン」

<構想アイデア>

- 休憩スペース
- リラクゼーションサロン

このエリアでは、温泉施設内に漫画や睡眠スペースを設けた「開放感のある休憩スペース」やマッサージなどを行う「リラクゼーションサロン」を整備することで、湯上り後にゆっくりと過ごしていただき、身体的・精神的なリフレッシュを可能とすることをテーマにしています。

また、温泉施設内のレストランや他エリアへの周遊利用を狙うため、滞在時間を長くする工夫について再考することも課題として挙げられています。

「百年記念公園」を拠点とした エリアは…「遊び・スポーツゾーン」

<構想アイデア>

- 子ども用アスレチック
- RVパーク
- バーベキュー場
- スケートリンク（冬季）

このエリアでは、「認定こども園みのり」の裏にある築山を生かしたジップラインやすべり台などの「子ども用アスレチック」と、冬季には「スケートリンク」を整備することで、遊び→温泉→食事という一連の周遊利用を狙うことができます。

このほか、キャンピングカー利用者向けに、24時間利用可能なトイレや電源、ごみ処理所を兼ね備えた「RVパーク」や、手ぶらで利用可能な開放感のある「バーベキュー場」の整備など、ファミリーや学生・若者が出かけるきっかけとなるイベントや場所の創出のほか、観光客の増加を図ることをテーマとしています。

4つのエリアの他にも…「旧中湧別駅舎の活用」

旧中湧別駅舎は駅名標、時計、当時のホーム放送など、当時の雰囲気が残っています。外観や内装はできるだけそのまま「泊まれる列車」に改装することにより、“全国から鉄道ファンが訪れることも期待できる”と提案されています。

若い方々に向けて、町の取り組みを紹介しました

11月30日（土）に文化センターTOMで開催された「ゆうべつ若者大交流会（湧別町産業間ネットワーク主催）」で、刈田町長がこの取り組みを紹介しました。今後も継続して町民の皆さんへ情報を発信していきます。



上湧別地区義務教育学校（上湧別学園） の開校に向けて

上湧別地区義務教育学校（上湧別学園）の4月開校に向けた準備が着々と進んでいます。上湧別地区の小中学校のPTA、学校運営協議会委員、地域の代表の方々および校長が参加した上湧別地区義務教育学校開設準備員会での協議を経て、「学校名」、「校章」、「校歌」を決定しました。

学校名は「湧別町立上湧別学園」

上湧別地区の小中学校の児童生徒を対象に実施したアンケート調査をもとに、開設準備委員会で最終案が決定されました。そして、9月に開催された湧別町議会第3回定例会において、湧別町立学校設置条例が可決され、正式に学校設置が決定しました。

校章は光り輝くチューリップをデザイン

上湧別地区の小中学校の児童生徒からデザインを募集し、そのデザイン案をもとに本町出身のグラフィックデザイナーである鈴木美里さんに制作を依頼しました。

上湧別のシンボルである個性豊かなチューリップが集まり、光り輝いている様子がデザイン化されています。



校歌は全国から募集

全国から広く募集し、22件の応募の中から、岩見沢市出身で現在は埼玉県在住の小学校教員である松原健太さんが制作した曲を採用しました。

松原さんが湧別町を訪問した際に見た雄大な自然を思い浮かべながら制作されたもので、1年生から9年生まで幅広い学年での歌いやすさも考慮し作られた曲です。

上湧別学園校歌

作詞・作曲 松原 健太

一 オホーツクの風に つつまれて

北の大地に 希望の種をまこう

十人十色の 花が 咲きそろう

上湧別 ここは 美しい ふるさと

二 抱いた願いを 忘れずに

輝く未来へ まっすぐ歩き出そう

十人十色の 夢が 光り出す

上湧別 ここは 温かい ふるさと

三 心と心を 結びあい

変わることはない 絆を確かめあおう

十人十色の 日々よ いつまでも

上湧別 ここは 大切な ふるさと



11/
9

自治会を超えて親睦を深める

上芭露老人クラブ・北町シニア会合同交流会

上芭露老人クラブ・北町シニア会の交流会が行われました。自治会を超えて互いに親睦を深めようと企画されたもので、合わせて35人が参加。

木の棒を投げ、木でできたピンがどれだけ倒れたかによって得点を重ねていくニュースポーツ「モルック」を楽しんだ後は、机を囲んで昼食を楽しみました。

また、食後はみんなで「四季の唄」や「りんごの唄」などを歌い、普段顔を合わせない人とも、和気あいあいと親睦を深められた様子でした。

北町会館



ニュースポーツ「モルック」などで親睦を深めました

11/
9

人物から湧別の歴史を見る

第14回ふるさと講座

町民有志で構成するふるさとから学ぶ会（代表 梅田唯士さん）と教育委員会の共催によるふるさと講座が開催されました。今回は「人物から湧別の歴史を見る～博物館収蔵資料を中心に～」と題して、ふるさと館JRY中島一之館長が講師を務めました。

明治期に活躍した湧別の人物を中心に、その人生や背景を収蔵資料や写真を使って詳しく解説しました。

ふるさと講座は約12年間にわたり開催されてきましたが、ふるさとから学ぶ会メンバーの高齢化により今回が最終回となり、惜しまれながら閉会しました。

ふるさと館JRY



全14回行われたふるさと講座は今回が最終回

11/
10

かけがえのない仲間とともに

上湧別中学校・ゆうべつ学園合同バンド定期演奏会

合同バンドは北見地区吹奏楽コンクールで4年連続金賞を受賞し、地区代表として全道大会出場を果たすなど活躍しています。

華やかなマーチで開幕した演奏会では、管楽器と打楽器のアンサンブルやテレビドラマの主題曲など、美しい演奏を披露。工夫が満載で多彩な演奏で楽しませるステージが繰り広げられました。会場には多くの観客が詰めかけ、曲に合わせた手拍子などで大いに盛り上がり、アンコール後には観客から惜しめない拍手が贈られました。

文化センターさざ波



5年前から「オール湧別」として合同チームを編成

11/
10

熱戦が繰り広げられる

子ども会交流ミニバレーボール大会

町青少年指導センター（平野寿雄所長）主催の子ども会交流ミニバレーボール大会が開催されました。

今大会には各子ども会から小学生8チーム、中学生3チームが参加。どの組も接戦となる白熱した試合が繰り広げられました。

勝ったチームも、惜しくも敗れたチームも笑顔で心地よい汗を流し、子ども会同士の交流を深めました。

中湧別総合体育館



小学生は南町子ども会A、中学生はチーム大和が優勝



文化センターTOM



ムックルという楽器の演奏も親子で披露

11/13 もっと知りたいアイヌの話

今年度の湧別町民大学が終了

旭川市にある川村カ子トアイヌ記念館館長の川村晴道さんと、副館長である母の川村久恵さんを講師に迎え、「もっと知りたいアイヌの話～上川アイヌの若き館長とお母さん～」と題し、今年最後となる5回目の町民大学が開催されました。

講演では、アイヌの歴史や文化が紹介され、「自然との共生を大切にし、旬の時期にしか狩りや植物採取をしないとアイヌの生活様式は、現在のSDGsの理念とも重なる」と話しました。

上湧別庁舎応接室



駐車場のライン引きをしていただきました

11/15 感謝状を贈呈

不二建設が地域貢献活動

文化センターさざ波の駐車場のライン引きをしていただいた不二建設㈱（滝川市）に因副町長から感謝状が贈呈されました。

これは、同社の地域貢献活動として行っていただいたもので、センター利用者の安全確保につながりました。

因副町長は「文化センターの環境整備にご尽力いただき、ありがとうございます」とお礼を述べました。

宝珠寺（北兵村三区）



子ども向けのイベントもあり多数の親子連れが訪れました

11/17 お寺de市場

宝珠寺で「てらのいち」

北兵村三区の宝珠寺の本堂にて、実行委員会（会長 米本志真さん）主催の「てらのいち」が開催されました。

服や雑貨のフリーマーケットやお花の販売、お菓子やキッチンカーでのカレー販売のほか、お寺ならではの坊さんのおはなし会も行われました。キッズ向けのヨガやマッサージなどの体験メニューなども行われ、町内外から多数の親子連れが訪れました。

今回が初開催となった「てらのいち」は、好評につき来春に第2回のイベントを開催する予定です。

湧別オホーツク園リラの社



介護に関する専門的な知識を深める貴重な体験ができました

11/19 職業選択の1つに

オホーツク園で介護体験

「将来の職業選択の1つになれば」と、実際の職員の動きを体験する「介護の日」が開催され、湧別高校生など7人が参加しました。

椅子からベッドへ移動させる「移乗介助」体験では、体の仕組みを理解して適切に補助することで、余計な力を加えずに介助できることを学びました。また、移乗サポートロボットや、睡眠を管理するセンサーなど、機械を用いることで介護する側の負担を軽減する仕組みも体験しました。



11/
22

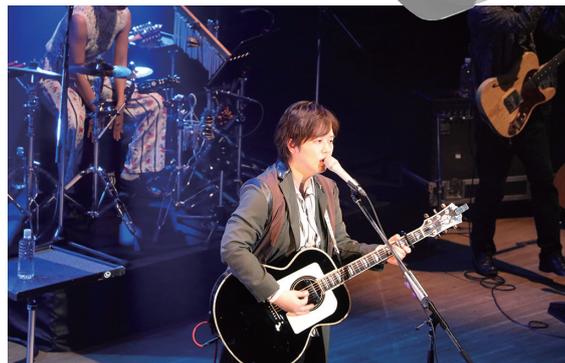
名曲を歌い継ぐ

三浦祐太郎LIVE2024

町民団体「良いもの見よう聞こう会」（川村寿光会長）が主催する芸術文化公演「三浦祐太郎LIVE2024」が開催されました。三浦祐太郎さんは、俳優である三浦友和さんを父に、歌手の山口百恵さんを母に持つミュージシャンで、バンド活動を経て現在はシンガーソングライターとして全国でライブを行っています。

「いい日旅立ち」や「秋桜」など母である山口百恵さんの楽曲も数多く演奏され、伸びやかな歌声で名曲を歌い継ぐ姿に、満員の会場は盛り上がりました。

文化センターさざ波



母である山口百恵さんの楽曲も数多く演奏

11/
23

手遊びや楽器体験でふれあい

湧別高校吹奏楽局がこども向けコンサート

初の試みとなったこのコンサートには、生徒の保護者だけでなく、親子連れも多数参加しました。

会場では、幼児向けの人気テレビ番組の曲や手遊び歌が演奏され、小さな子どもたちは自由に体を動かして踊ったり、笑顔を見せながら楽しんでいました。

その他にも、子どもたちが鉄琴やドラム、サクソなど自由に触れ、音を出すことができる体験の時間もあり、親子の絆を深め、音楽に対する興味や親しみを持つきっかけとなる楽しい時間を過ごしました。

文化センターTOM



子どもたちは自由に体を動かし楽しんでいました

11/
24

ふるさとの話題で交流を深める

東京湧別会総会

湧別町出身者の親睦団体「東京湧別会」（後藤義英会長）の第15回総会が開催されました。

後藤会長より湧別町産のホタテなど水産物のPRや江戸川区との地域交流計画の話がありました。刈田町長は町政報告をするとともに市町村別の平均所得順位に言及し「湧別町は全国1,741市町村のうち42番目、道内では8番目になっている」と述べました。

懇親会では、ふるさと湧別の話題で交流を深めるとともに、歌謡ショーやビンゴ大会で盛り上がりました。

東京都内



関東圏に住む70人が出席

11/
29

「変化・気づき」を支援につなげる

支えあいサポーター養成講座

高齢者を支える地域づくりへの理解を深める「支えあいサポーター養成講座」が開催されました。

地域福祉に関する講義では、町社会福祉協議会の海谷政貴さんが講師となり、顔見知りという立場だからこそできる生活支援が大切であること、生活の延長上にある「しながらの活動」で支え合うことなど、地域全体の見守りが重要であると話しました。

認知症サポーター養成講座では、認知症の原因や、その症状と周囲の対応や支援などについて解説されました。

文化センターさざ波



湧別町生活支援体制整備事業として実施



文化センターTOM



大学と連携しさまざまな可能性を探っていくことを確認

11/
29

新たな循環型ビジネスを探る

小樽商科大学産学官ビジネスセミナーin湧別町

このセミナーは12月13日の連携協定に先駆け、小樽商科大学が湧別町におけるサーキュラーエコノミー（循環型経済）の議論を深めるため開催されたもので、牛の尿から消臭液を製造・販売する循環型ビジネスの事例や、未活用のコンブを乳牛の飼料添加物にする取り組みが紹介されました。パネルディスカッションでは、来年稼働予定のバイオガスプラントで副産物として生じる処理水を活用する新たな循環型ビジネスについて議論が交わされました。

文化センターTOM



さまざまな職種の若者約90人が参加

11/
30

異業種間で新たなつながりを

ゆうべつ若者大交流会

職域を超えた若い世代のネットワークづくりを目的に、町内外の産業団体と町で構成する「湧別町産業間ネットワーク」の主催で行われたイベントで、18歳から39歳までの農林漁業者や技能実習生、町内のお店や会社に勤めている方などが参加しました。

ビンゴゲームでは、初めて顔を合わせる人も多い中、ニックネームで呼び合ったり、お互いのカードを確認し合ったりしながら、職種だけでなく、国籍を超えた交流も多くみられ、新たな出会いを楽しめた様子でした。

中湧別総合体育館



各自治会から6チーム、約90人の選手が参加

12/
1

地域の仲間と力を合わせて

町民300歳バレーボール大会

出場選手の年齢の合計が300歳以上になるよう構成されたメンバーで、この大会に向け練習を重ねた各チームは抜群の団結力を見せ、好プレーや珍プレーに一喜一憂するなどとても盛り上がり、大きな歓声が上がりました。

見事に優勝した「錦チーム」、残念ながら負けてしまった各チーム、同じ自治会でも普段はなかなか顔を合わせる事のない方々も、大会終了後の懇親会を含め、これまで以上に自治会の結束が深まる1日となりました。

文化センターTOM



全道各地から過去最大の62店が集結

12/
1

冬のあったかマルシェ

ふゆまる。に1,300人が来場

「ふゆまる。実行委員会（代表 細川佐和さん）」が主催するこのイベントには、アクセサリーやハンドメイド服などのショップ、占いやマッサージ、アロマキャンドル作成の体験コーナー、カレーやパン、ラーメン、ワッフルなどを提供するショップやキッチンカーも登場しました。子どもたちも楽しめるようにとバルーンアートショーも行われました。

来場者は、「たくさんのお店が出店し、食べ物も充実していて一日中楽しめる」と話していました。



イベント・行事スケジュール

12月25日から2月20日までに行われるイベントや行事をお知らせします。

12月25日(水)	スマホ個別相談会 (9:00 芭露地区会館)
1月 5日(日)	湧別町消防団出初式 (10:00 文化センターさざ波)
7日(火)	ジュニアスケート教室 (13:30 芭露スケートリンク) ~9日
11日(土)	百人一首教室 (13:00 上湧別農村環境改善センター)
12日(日)	令和7年「20歳の集い」(13:30 文化センターさざ波)
16日(木)	チューリップ生きがい大学「地域講演会(シブノツナイ堅穴住居跡)」(10:00 文化センターさざ波)
18日(土)	わくわく体験塾「氷下釣り」(10:00 芭露川) 百人一首教室 (13:00 上湧別農村環境改善センター)
19日(日)	新春交歓カルタ大会 (9:00 上湧別農村環境改善センター)
25日(土)	チャレンジスポーツスクール「スケート教室・氷上ホッケー」(10:00 芭露スケートリンク)
26日(日)	クロスカントリースキー教室 (10:00 五鹿山スキー場)
2月 1日(土)	町民スケート大会 (9:00 芭露スケートリンク)
2日(日)	家庭教育研修会 (10:00 地場産品加工センター)
8日(土)	わくわく体験塾「スノーハイク」(9:00 登栄床)
15日(土)	チャレンジスポーツスクール「HIIT THE BEAT」(10:00 湧別総合体育館) こどもアート体験事業「ダンスワークショップ」(13:30 文化センターさざ波) ~16日



レバンガ北海道を応援する、看板広告&バスラッピング広告が完成!

湧別町とレバンガ北海道は昨年10月、地域活性化、学校教育、スポーツ振興と健康づくりの分野で、お互いに協力するための包括連携協定を締結しました。

今回、レバンガ北海道の応援として、かみゆうべつ温泉チューリップの湯駐車場に看板広告、北海道北見バスにラッピング広告を作成しました。

広告は、本町出身の関野剛平選手を全面に打ち出した力強いビジュアルになっています。

この広告を通じて、町全体でチームを応援するムードをさらに高め、チームの活躍による地域の活性化、そして町民同士の絆を深めることを目指します。

皆さんもぜひこの広告を見て、レバンガ北海道へ熱いエールを送りましょう。



質の高い

信頼される行政の実現へ

令和6年度行政評価の結果

行政評価の取り組み

町では、効率的な行財政の運営を
目指すため、行政評価を行っていま
す。

行政評価とは、「計画」「執行」「点
検・評価」「改善」のサイクルを指し
ており、事務事業の必要性や有効性
などの視点から点検・評価を行い、
その結果を次の事務事業の実施に反
映させます。

行政評価の方法

行政評価は次の順序・評価者に
よって行われ、事務事業の今後の方
向性について判定します。

行政評価の順序・評価者

1次評価	担当課による自己評価
2次評価	副町長・教育長など
外部評価	行政改革推進委員会 (町民10人)
3次評価	町長・副町長・教育 長など
総合評価	町長・副町長・教育 長・全課長職

総合評価で「拡充」、「改善」の評価を受けた事業

判定区分	事務事業の名称
<拡充> 事業費の規模を拡大・充実させることが適当と判断される事務事業	地域おこし協力隊事業
<改善> 対象や手段、経費などの見直しにより、成果が向上すると判断される事務事業	一般廃棄物収集事業 資源ごみリサイクル事業 起業支援事業 小規模事業者施設等整備事業 ふるさと納税推進事業 新規就業等移住支援事業 観光協会補助事業 ワーケーション利用促進事業 湧別高等学校魅力化推進事業 スポーツ・文化遠征費補助事業

本年度の行政評価は、137の事務事
業を対象に評価し、総合評価で「拡
充」、「改善」の評価を受けた、または
意見が付された事務事業は、来年度
の事業実施に向けて、改善策の検討
と取り組みを進めます。

行政評価の結果

外部評価について

外部評価は、10人の行政改革推進
委員によって、行政職員とは違った
角度から確認・評価を行い、必要に
応じて委員会としての意見を付して
います。

外部評価での事務事業に対する主な意見

事務事業の名称	判定区分	意見の内容
ワーケーション 利用促進事業	現状 維持	関係人口を増加させるため、 制度の内容の更なる充実を検討 いただきたい。
起業支援事業	現状 維持	法人存続のための事業承継も、 産業振興や雇用創出に寄与す ると考えられるため、商店街 存続のためにも助成の対象と なるように見直しを検討いた だきたい。

行政評価の内容は、役場庁舎およ
び図書館で閲覧することができます
が、町ホームページでも公開して
います。

【お問い合わせ先】

企画財政課企画財政グループ
Tel 2・5862



町ホームページ

広告

お電話1本、24時間、365日お迎えに伺います



株式会社

えんがる葬祭

☎0158-42-9898

遠軽町学田2丁目6-1 FAX 0158-42-9933

24時間
受付

式場収容数

- ・大ホール400名
- ・中ホール200名
- ・小ホール100名
- ・法事ホール